

平成 27 年度 活動方針

平成 26 年の直江津港のコンテナ取扱個数は、新たに利用を始めた企業の増加や従来から利用している企業の業績が堅調だったことなどから、31,341TEU と 5 年連続で過去最高を更新している。今後も安定した取扱個数を確保するため、上越市や糸魚川市、妙高市の地元企業はもとより、後背地である長野県の企業、更には、その他地域で太平洋側港湾を利用している企業に対し、リスク分散の提案など利用促進活動に引き続き取り組んでいく。

一方、貨物量は 6,932,265 トンで前年比約 18% 増となった。貨物量の大部分を占める LNG は、荒浜ふ頭の火力発電所や LNG 基地の本格運転により増加傾向にある。更には、新たな火力発電所の建設が決定し、平成 31 年着工、平成 35 年運転開始に向けて動き出したところでもあり、今後もエネルギー港湾としての発展が大いに期待される場所である。

また、上越沖日本海にも存在が確認されている表層型メタンハイドレートの資源量の把握に向けた国の取組は、平成 25 年度から始まり、今年度に終了する見込みである。その後は、方向性の確認・見直しが行われ、資源回収技術の本格調査・研究開発等に着手する計画である。直江津港が表層型メタンハイドレートの開発・研究、生産施設の拠点港に選定されるよう、県や市と連携しながら、国に働きかけていく必要がある、関係者はもとより、一般市民も巻き込んだ気運の醸成を図っていく必要がある。

今年 4 月には小木直江津航路に新造高速カーフェリー「あかね」が就航した。同じく 3 月に開業した北陸新幹線と合わせ、北陸や関西からの時間短縮効果と特殊なスタイルから、佐渡への誘客増加による小木直江津航路の活性化が期待されているところである。

また、港は、人や物が集まることにより、賑わいや交流が生まれる場であり、そうした港の持つ機能を含め、重要な社会基盤でもある直江津港の機能と役割について、地域を始め、港を訪れる皆さんに今以上に理解していただくことも重要なことである。

以上を踏まえ、次の事項を重点目標に掲げ、関係者が一致協力して活動を展開する。

重点目標

- 1：直江津港港湾計画の促進
 - エネルギー港湾としての整備促進
 - 港湾施設の維持、拡充
- 2：直江津港の利用促進
 - 地域産業との結びつきを強めたポートセールスの実施
 - 長野県や近隣地域との連携による利用促進
- 3：国際定期コンテナ航路の拡充
- 4：国の港湾施策並びに次世代資源メタンハイドレート関連施策に関する情報収集及び要望活動
- 5：高速カーフェリー「あかね」をいかした小木直江津航路の活性化
- 6：交流拠点としての直江津港の賑わい創出